

## 7.松尾ヶ池

### ■ 池底質調査

溶出試験の結果、総水銀、鉛、砒素いずれの項目も定量下限値未満であり、土壤汚染に係る環境基準値に適合していた。  
含有試験の結果、いずれの項目も土壤汚染対策法指定基準値を大きく下回る結果であった。  
ダイオキシン類分析結果もダイオキシン類対策特別措置法に基づく底質環境基準を大きく下回る結果であった。

### ■ 池水調査

環境基準項目で今回調査した項目は、すべて定量下限値未満であった。  
ダイオキシン類は、ダイオキシン類対策特別措置法で定める環境基準値に適合していた。  
生活環境の保全に関する環境基準項目は、BOD・CODが環境基準B類型及び農業用水の基準値を超過したが著しい汚染があるとは考えられない値であった。  
pHについては下記の理由で高いアルカリ性を示した。

理由： 採水時の晴れた天候かつ浅い池で光が行き渡りやすい状態でおこる植物による活発な光合成により、水中の二酸化炭素が減少し水はアルカリ性を示したと考えられる。  
松尾ヶ池は閉鎖性が強くBODが存在するにもかかわらずDO値が高いと言うことも、この光合成による酸素の排出が原因であると考えられる。  
他の監視項目は、排水基準・農業用水基準がある項目について基準を満たしていた。

